

かも棚同士の横の連結を容易に外せるようにしておけば、傷んだり老朽化したりした棚を入れ換えることが容易だろう。

私はもはやこういう標本棚を試作させる立場にはないので、せまい通路で能率の悪い作業をさせられているキーパーの方々や、移動式を検討し、あるいはすでに導入しておられる機関の方々の参考になればと思い提案する。

試案についてご意見をうかがった国立科学博物館植物研究部の秋山 忍氏、東京大学総合研究博物館植物部門の清水晶子氏にお礼を申し上げる。

引用文献

金井弘夫 1991. 移動式おしぼ標本棚の得失. 植物研究雑誌 66(3):176-180.

(184-) 小金井市
Koganei,
Tokyo, 184-) JAPAN)

新刊

□ Tsunehiko Nishikawa (ed.): **Chromosome Atlas of Flowering Plants in Japan. National Museum of Nature and Science Monographs No. 37.** B5. 706 pp. 2009. Library, National Museum of Nature and Science, 3-23-1 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0073 JAPAN. ISSN: 1881-9109.

北海道教育大学の西川恒彦氏による、日本の顕花植物の染色体数総覧である。1-461 ページは種類別のリストで、種類、配偶体、孢子体、出典の見出しの下に、カウントされた染色体数が、複数の出典があれば年代順に列記されている。植物の配列は科・属・種の学名の abc 順である。発表が現行の学名と異なる場合には、現在に合わせて整理されており、約 780 属、5,700 の分類群が見られる。462-706 ページは、これらの根拠となった約 6,200 の文献のリストである。染色体数は、タクソンを扱うときに重要な情報なので、それを見やすい形に整理して下さった西川氏の永年の努力を評価したい。

近頃は分子レベルの研究が隆盛で、染色体レベルの仕事は影が薄くなった感がある。種類別リストから概算してみると、1910 年代から始まった報告数は、1940 年代の大戦の影響とみられる谷を経て 1980 年代にピークとなり、1990 年代に入って減少に転じている。我国の顕花植物の染色体は数え尽くされたのかということ、そんなことはあるまい。時流に流されず、一つの仕事をやり続ける人がいてほしいものだ。

本書には頒価がついていない。国立科学博物館新宿分館図書室に問い合わせたところ、モノグラフシリーズには元々頒価はついておらず、研究機関や図書館から希望があれば頒布に応じるとのことだった。「こういうリストはデータベース検索できるようにしてあればよい。その方が金も手間

も時間もかからずに情報が得られて便利だ」という声が出るに違いない。確かにユーザーには便利この上ないだろうが、私には首をひねる点がある。そういうデータベースは、担当者の不断の努力なしには維持できない。絶えず更新される結果、参照はできても引用はできない。そして担当者がいなくなれば消滅してしまう。某研究機関のウェブサイトには「本ウェブサイトの情報を無断で転用することを禁ずる」と書いてある。公表している情報を転用（つまり引用）するのに一々許可を求めろというのは、転用されたときにはそのウェブサイトの情報が更新されて変わってしまっていて、作者の責任を問われる心配があるからだろうと思う。だから、ウェブサイト情報として公開するのは作者のサービスとしても、一度はハードコピーとして出版し、情報を固定しておけば、ユーザーは普通の仁義を切るだけでそれを引用できるし、そのハードコピーは作者の業績として残るだろう。(金井弘夫)

□ 柏谷博之: **地衣類のふしぎ** サイエンスアイ新書. B5 版, 206 pp. 2009. ¥1000. ソフトバンククリエイティブ (株). ISBN: 978-4-7973-4153-9.

著者が言うとおり、これは地衣類の専門的な知識の普及のために書かれたものではない。しかし、一般の人々にとって馴染みの薄い地衣類を身近なものと感じ取って貰うためには、本書に収められた彩り豊かな地衣類の写真の数々はそれなりに効果的である。本書は、著者が 40 年以上の調査・研究の途上で撮り集めた地衣類の写真集であるから、こんな形で紹介するには勿体ないような、見事な写真が随所に見られ、折に触れて楽しむことができる。

図鑑を利用するには、それなりの専門知識が必